

12月21日(月)

かすかな細い声

聖書朗読 I列王記 19:10~18

わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしにくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

マタイ11:29

メリッサは自分の人生で起きた、つい最近の嵐のことを思い起こしていました。嵐がどれほど予想外であるかを考えて、その方向を変えてくださるように、神様にどんなに懸命に祈ったとしても、嵐の標的が彼女であることは確かでした。神様のこと、そして自分が神様を最も必要としているとき、神様の声がとても遠くに思えたことを考えました。

それから、自分が見失っていたことあるのに気づきました。それは、神様は近くに来てくださったということです。嵐のさなかには自分の恐怖に集中しすぎて、神のかすかな細い声に注意を向けることができませんでした。

今日の聖句では、風の中にも、地震の中にも、火の中にも主はいらっしゃいませんでした。そうではなく、主はかすかな細い声として現われられました。否定的な感情が私たちの世界を揺るがすときでさえ、神様のご誠実さは常に、本当に常に揺らぐことはありません。

私に息を吹き込んでください！神の息吹を
新しい命で私を満たしてください。
私はあなたが愛するものを愛し、
あなたがなされることをしたいのです。

エドウィン・ハッチ

讃美歌 516

祈り 親愛なる神様。あなたの優しさ、思いやり、愛に感謝します。毎日、太陽が昇るのと同じように、あなたはそれらすべてを私たちに示してください。この瞬間から、私が、あなたの優しさ、思いやり、愛を私の周りにいる人たちに示すことができますように。

あなたの貴い御子のお名前においてお祈りします。アーメン。

エミリー・L・タウンゼント
テネシー州 ナッシュビル

今日のカ

2020年12月21日~12月27日

翻訳 村越克子
中野雄貴

編集 野口恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

12月22日(火)

油の話

聖書朗読 II列王記 4:1~7

さあ、神を恐れる者は、みな聞け。神が私のたましいになさったことを語ろう。

詩篇 66:16

彼女は愛する夫を亡くし、さらに借金返済のために、ふたりの息子が奴隷として貸し主に連れて行かれそうになっていました。亡き夫は神を恐れる者でした。未亡人が亡き夫の信仰を分かち合っていたことは確かです。

彼女は自分が顔を向けるべきところを知っていました。彼女はエリシャに自分の窮状を知らせました。エリシャは彼女に、借りられるだけの空の器を集めなさいと指示し、そして、集めたたくさんの空の器にいっぱいになるまで油を注ぐように言いました。

借金を返済するにはヘンな方法ですね。

でも、彼女は躊躇しませんでした。エリシャが言った通りにして、借金を返済するのに十分な恵みを受け、さらに自分と息子たちが暮らしていける分のお金まで残りました。

そのことはふたりの息子たちにとって、とても重要なことだったに違いありません。彼女が器に油を注いでいる間、息子たちは次々に器を持って来ました。彼らは家にあつた小さなつぼが、あらゆる論理に逆らって、次から次へと油を注ぎ続けるのを見ました。彼らは自分の家で神様が働いてくださっているのを見ていました。

ふたりの息子が、いつか自分たちの子どもに、このことを話すことを想像してみてください。子どもたちは目を見張るような不思議な話に耳を傾け、その後の数日間に何度も、「お父さん、油の話をもう一度して！」とねだるのではないのでしょうか。

今日の聖書の箇所未亡人を助けた同じ神様が、私たちをずっと助けてくださっているのです。神様が私たちに何をしてくださるかを、自分の子どもたちに話しましょう。そして、子どもたちの信仰が育まれるのを見守りましょう。

讃美歌 533

祈り ああ、神様、私たちのお父様。あなたは本当に私たちに恵みを与えてくださいます。人々があなたを知り、頼るようになるために、私たちに対するあなたの慈しみを証しすることができますように助けてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

デヴィッド・ギブソン
テキサス州 コマース

12月23日(水)

目を開く

聖書朗読 II列王記 6:9~17

主の主であられる方に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。ただひとり、大いなる不思議を行なわれる方に。その恵みはとこしえまで。

私たちの信仰は驚嘆すべきものに基づいています。聖書の最初の創世記にある宇宙の創造、大洪水、イサクの誕生、またはモリヤの地での神様の御介入などの話がないければ、聖書ではありません。これらの話は付随的なものではなく、私たちの信仰の骨組みそのものの一部です。

聖書の話が真実であるとは言え、誰も聖書に書かれていることすべてについて、みんなが納得するような説明をすることができません。私たちには限界がありますが、それでも何かに、あるいはどなたかに信仰を置くことを選びます。弟子たちは、最新の科学的見解や人類学的モデルまたは文化的所見よりも、神様に信仰を置くことを選択しました。

私たちに実際に求められているのは、みことばや私たちを取り囲む世界の不思議に鈍感にならないようにすることです。つまり、神様の目で、信仰の目で物事を見ていくことです。エリシャは、若者の目を開いて、神の火の馬と戦車の軍隊が見えるようにしてくださいと神様に祈りました。ある聖書注解者はこうズバリ言いました。「今起こっていることではなく、神様の目で今の状況を見ること、つまり、エリシャが祈ったことにより若者の目に火の馬と火の戦車がはっきりと見えたということが奇跡なのです」と。この箇所を読んで、そのことを考えてみてください。

讃美歌

祈り お父様、私たちは不思議に満ちた世界の中で生きていますが、私たちが、それに鈍感になってしまう可能性があることをよくわかっています。目を覚まし、あなた様の素晴らしいみわざに注意深くある生活を送れるように助けてください。

キリストを通して。アーメン。

ブルース・グリーン
アラバマ州 オペリカ

12月24日(木)

まだです

聖書朗読 エズラ 4:12~24

私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。 ヤコブ 1:2~4

人間は2つの要素によって左右されます。それは理性と感情です。この2つのバランスが取れていることはいいことですが、得てして一方が他方を上回ることがあります。私たちは理性も感情も神様のご支配のうちにあるようにする必要があります。

エズラの時代に、バビロン捕囚から帰ってきたユダヤ人たちは、エルサレムの神殿および城壁の補修に取りかかりました。しかし、それまで何度もそうだったように、今回も、彼らの心は正しい場所にはありませんでした。エルサレムを再建しようとする彼らの動機は間違ったものでした。神の宮の工事は中止になりました。「まだです」というのが、神様のお答えでした。

自分自身の人生を顧みたとき、自分が本当に望んでいたことを神様が止めなければならなかったこと、私たちの祈りに神様が「まだです。」とお答えになったことが何度あったでしょうか。私たちは自分の考えと想いを、神様のみことろと一致させたいと思っています。今までどれだけの人が、神様が「まだです」とおっしゃったことが「今がその時です」に変わったのを見たと言っているでしょう。私は確かに経験しました。あなたの人生の中で、神様が「まだです」とおっしゃった後で、み力を働かせられたのを経験したことがありますか。

神様のみことろを行うとき、神様のご計画について異議を唱える余地などないと知った。
ジョージ・マクドナルド

讃美歌 285

祈り お父様、あなたと時とみことろのうちに生きることを選択します。
イエス様のお名前によって。アーメン。

シェリー・リームズ
テキサス州 ラボック

12月25日(金)

祈り動く

聖書朗読 ネヘミヤ記 4:1~9

義人の祈りは働くと、大きな力があります。 ヤコブ 5:16

ネヘミヤ記は破壊されたエルサレムの城壁を立て直し、ユダヤ人と神様との関係を立て直すという大事業についての記録です。神様への信仰と信頼によって、一見不可能に見えるこの仕事をネヘミヤは成し遂げることができました。神様を信頼し、その信仰ゆえに働けたのです。

最初の章でネヘミヤはエルサレムの現状を聴き、泣き崩れ、喪に服し、断食をしました。そしてペルシャ王と話す前に神に祈ったのです(ネヘミヤ1:5~10, 2:4)。またその働きが侮辱されたときも安全のために神に祈り、警備の人間を増やしました(ネヘミヤ4:4~5)。そして脅迫され、中傷されたときにも、ネヘミヤはただただ祈り、働き続けました(ネヘミヤ6:9)。

民が神様に背いてしまったとき、ネヘミヤは祈りと行動で民の規範となり、民が神様に祈りもう一度立ち戻ることを求めました。思い通りにはいかないこの世界ですが、神様を信じ祈り、行動しましょう。

讃美歌 270

祈り 愛するお父様。あなたこそが私たちに力と知恵と喜びとを与えてくださることに感謝いたします。私たちが困難に直面した時も、あなたに立ち返り、信仰によって行動することができますように。
イエス様の御名によりて、アーメン。

ジナ・ゴードン
サウスカロライナ州 ミュレンズイレット

12月26日(土)

平和の君

聖書朗読 詩篇 3:1~8

しかし、主よ。あなたは私の回りを囲む盾、わたしの栄光。そして私のかしらを高く上げてくださる方です。
詩篇3:3

聖書の中のヒーローたちは、渴きを覚えた時、どのように行動したのでしょうか。モーセ、ダビデ、エステルたちは、皆、神が共におられることに疑問を覚えた事がありました。

そんな時、私は「Hold me Jesus(イエス様、抱きしめて下さい)」という歌を思い出します。その歌詞は、わたしに芯のない信仰を自覚させます。「連なる山々はあんなに大きいのに、なんて私の信仰は小さいのだろう……」歌の中では、この疑問と恐れを抱えた人を、イエスは抱きしめたのです。私が渴くとき、神に救いの御手を求めますが、実はもうそれはすでに与えられているとこの歌は語ります。その大いなる御手に身を委ねるのです。

パウロは私たちの信仰についての悩みを素直に神様に打ち明けるべきだと語っています。神様は私たちが喜ぶ主にあって喜べるように、常にその悩みを目にとどめてくださいます。その祝福の中で生きているのです。だから、あなたはただ、あなたの必要を主に委ねるだけでいいのです。

讚美歌 312

祈り 天にいます愛なる父なる神様、あなたの御名を賛美いたします。栄光と、平穏とをもたらしてくださることに感謝いたします。

信じます主イエスキリストの御名を通してこのお祈り、御前にお捧げします。アーメン。

イエス様、私を抱きしめて下さい
木の葉のように震えるこの身を
私を栄光に導く王様、
平和の君である主よ
リッチ・マリンス

ジャック・ウィリアムソン
カリフォルニア州 サウザンドオークス

12月27日(日)

塵(ちり)と感じるときでも

聖書朗読 詩篇 8:1~9

神、主よあなたの偉大さと、あなたの力強い御手とを、あなたはこのしもべに示し始められました。あなたのわざ、あなたの力あるわざのようなことのできる神が、天、あるいは地にあるでしょうか。

申命記 3:24

私たち夫妻はテキサス州フォートデイビスにある天文台を訪ねたことがあります。そこには街灯も連なる自動車のライトもありませんでした。何分か経ち目が慣れてから、ガイドが手に持つ天体観測用のレーザーポインターを頼りに、空の観察を始めました。言葉では言い表せない光景でした。我々は無数の銀河の中のチリに過ぎないのです。取るに足りない存在だと感じるのも無理のないことです。

しかしキリストを通じて我々は自らの重要性を知るのです。神様は我々を造り、キリストは我々を救いました。ほかの何物もそんな愛と犠牲とを注がれてはいないので。

私たちは俗世的欲求で地位・力・権力・優位性を望みます。私たちがこんなものために努力するとき、その姿は見るに堪えない小さきものとなっているのです。しかし選んでくださった神様を知っていれば、私たちはもはや宇宙のチリではないと気が付くでしょう。無意味で広大な宇宙で私たちの存在が消えていくなんてことはありません。神様が造られた私たちは、その計画を実行するために存在しているのです。

讚美歌 352

祈り 天にいます父なる神様。力強く、慈悲深いあなたのことを信じます。私たちを創ってくださり、めぐみを与えてくださることに感謝します。

イエス様の御名によりて、アーメン。

ボブ・マイズ
テキサス州 ラボック